

## 森林審議会 現地検討会議 委員意見と対応

## 森林政策課

番号	意見	対応
1	カラマツの 11、12 齢級の主伐再造林をどう指導していくのか課題があり、安易な長伐期施業という方針は好ましくない。	カラマツ材の需要に対応し主伐を進めるため、P19「ア 生産・流通・加工・利用体制の整備」に体制整備を推進する内容を記載しました。 また、確実な更新を図るため、P17「オ 適正な更新施業」に考え方を記載しました。
2	1～6 齢級が少ないが、どのようにしていくのか。	主伐の促進と、その後の再造林により齢級の平準化を図ることとし、P17 に「エ 主伐の促進」、「オ 適切な更新施業」に考え方を記載しました。
3	林地台帳について説明を入れて分かり易くしてはどうか。	P11「ウ 施業集約化の促進」に注釈を追加しました。
4	ニホンジカの被害もあるので記載をするとともに、鳥獣害防止森林区域の説明を入れて分かり易くしてはどうか。	P22「イ ニホンジカ被害の対策」に生息分布の把握等具体的な内容を記載しました。 鳥獣害防止森林区域については、P12「エ 野生鳥獣害対策」に注釈を追加しました。
5	民国連携はさらに密にしていきたい。	木曾谷計画区では 6 町村全域で森林共同施業団地が設定されるなど民国連携が進んでおり、今後も施業・流通両面で取り組みを進めます。
6	県産材の利用については、地元のホームセンター等で購入できると、より使いやすい。	県産材製品の取扱いについてホームセンターに働きかけを行い、千曲市等の店舗で販売が行われています。県民の皆様が県産材を手軽に購入できる仕組みの検討を進めます。
7	教育に関する事項が改正され、森林環境教育についても記載があると思うので検討していただきたい。	P21「ア 多様な主体の参加の促進」(イ) に、森林環境教育の推進や、教職員への研修会の開催等について追加しました。
8	木曾谷は林業が頑張らなければならないと思う。海外も視野に考えてはどうか。	自立した林業構造を構築するため、他県や海外の動向を見据えて各流域の方向性を検討する「信州の木自給圏の構築事業」について、P20 ウに追加しました。